

復活節第6主日

世界広報の日

福音朗読 ヨハネ 15・9-17

2024.5.5 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

冒頭にも申し上げましたけれども、今日はカトリック教会の中では「世界広報の日」に当たっていて、お祈りと献金を呼び掛けられています。日本語では「広報の日」というふうに言われますけれども、昨年も申し上げたのではないかと思います。英語で言ったほうがピンとくるかもしれません。英語では **World Communications Day** というふうになっています。「コミュニケーションの日」ですね。

教皇様のメッセージ は、いろいろなコミュニケーション、特に直接出会ってのではなくて、今だったらインターネットとか、そういうようなコミュニケーション手段だったり、コンピューターの AI などについての技術を適切に用いていくってというようなテーマで語られますけれども、基本的には、そういうメディアとか手段の話だけではなくて、人間相互のかかわり方を土台にして、そこから現代の色々な流れを相応しく判断することが呼びかけられていると言えると思います。

その中で、今日の福音は、コミュニケーションの中の最も中心的な——そしてわたしたちキリスト信者の信仰の呼び掛けの中心でもあります——「互いに愛し合いなさい」というイエス様の言葉が朗読されました。今日の福音の最後の言葉は「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」（ヨハネ 15・17）というイエス様のお言葉でした。ただ、よく注意深く考えてみると、愛するっていうことは命令されてできるということではないんです。愛というのは人間の自由の中の最も自由な決断から出てくる行為ですから、愛するように誰かを強制することはできないんです。そういう意味で、「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」っていう、その言葉は少し何か矛盾があるような気がします。

命令っていうのは多くの場合やりたくないことをやるっていう、そんなニュアンスがわたしたちの中にはあるんじゃないでしょうか。わたしはカレーライスが好きですけども、誰にも命令されてなくてもカレーは食べます。(笑) でもきゅうりは嫌いなんです。命令されなければ食べないかもしれないんです。(笑) そんな感じです。それはちょっとくだらない例ですが。

でも、ごく稀にですけど、大司教様に対して「これは司教命令ですか？」って聞くことがごく稀にあります。それは教区司祭が、やりたくないことを言われたときです。「司教命令ですか？」それは、やりたくないこととか自分が賛成してないことを大司教様、司教様たちに言われたときに、「これは司教命令ですか？」って言います。でも、それに対して「司教命令です」っていうふうな答えが返ってきたこと

はないんです。その辺が「ずるいなあ」と思うと同時に、でもそれは、大司教様が何もおっしゃらないのは、「あなたが司祭職をやっているのは誰かの命令ですか？」というような問いかけがあるのかもしれないんですけど。だからそういう意味で、いろんな形で大司教様は教区司祭たちから、今よく話題になっている「逆パワハラ」ってのを受けてるかもしれませんので、かわいそうなんです。だからほんとにお祈りしなくてははいけません、皆さんが。

と同時に、わたしたちの側からすると、大司教様から言われたことに「はい」と言った場合、何か問題が起こったときに「いや、それは高木神父さんが勝手にやってることだから」とか、あるいは、「こちらの SOS が流されて、一度任命されてしまったならばもうあとは何にも助けが来ないんじゃないかなあ」っていう、そういう心配の中にあるので「司教命令ですか？」って聞く、そういう意味で——今日はコミュニケーションの日ですけども——コミュニケーションが司祭団、司教の中でもまだ完成してないっていうところがあるのかもしれません。

でも、「これ、命令ですか？」っていう意味には、したくないことをしなきゃいけないってこと以外に、それを受け入れて行うに当たっては、自分は同じ意見じゃない場合もあるし、そして「無理だって言ってるのに、でもこれをやるんだから、もちろんその後もサポートがあるんでしょねえ」っていう、そういうニュアンスも含んでます。

今日の福音の中のイエス様の「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」っていうのは、「嫌々でも何かしなさい。これをしなかったら地獄に落とすぞ」とか、そういった強制するっていう意味よりも、むしろイエス様のほうがこれを望んでいる、受け入れるか受け入れないかの自由はあなたにあるけれども、もしこの呼び掛けに応えるならば、イエス様が最後まで責任を持って助けを与える、共にいるんだ、っていう意味で、呼び掛けたほうが責任を持つっていう意味での命令あるいは掟っていうふうに理解することができると思います。

イエス様は決してわたしたちの自由を奪い取るとか、何かをわたしたちが自由に決断しないことを強制する、それを課そうとしているのではありません。なぜならば、「愛する」ということは、基本には相手が自由な存在であるということを受け入れる、それが絶対的な「愛する」ことの出発点であります。でも、イエス様の側が望んでいることを今度はわたしたちに打ち明けられる。そして、その呼び掛けに応えるならば、それをイエス様の責任において呼び掛けたのだから、決して一人ぼっちで自分の力だけでしなさいというふうに放り出す、はしごを外すということはないのだと。そういう意味で「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」を受け取ったらいいんじゃないかなあと思います。

わたしたちが、自分ができるからそれを受け取るのではない。イエス様が言ってくださるから、その恵みに、サポートに信頼して、互いに愛し合おうとするという、その一歩を踏み出す。でもその土台には、「愛する」ということは自由な決断なんだ、

自分が自由であり、そして相手の自由を受け入れるのだ、そしてコントロールしようとしないう、コントロールされるのではない、それをいつも念頭に置いておかなければならないと思います。

「あなたがわたしを愛しているんだったらこのことを行うはずだ」あるいは「これを受け入れてくれるはずだ」っていうような言い方で人をコントロールしようとする人がいます。そういう時に、わたしたち、特にキリスト信者は、「ああ、受け入れてあげるっていうことが愛なのかな」って立ち止まっちゃうんです。あるいは、だまされちゃう、はっきり言えば。この掟を大切にしているがために、「あなたが愛するんだったらこれをするはずだ」っていう、その言い方でコントロールしようとする人がいる。そういうことにわたしたちがなっちはならないし、そういう手に乗ってはいけないわけです。

それは、「愛する」というのは相手の自由を尊重する、もちろんそれが「勝手にしてください」って無関心な自由の尊重ではなくて、より良く生きるということを互いに望み合いながら自由を尊重する、そして自分自身の自由も大切にしていかなければならない。それがすべての出発点である。神様からいただいた似姿である自由な人格としての自分そして相手を尊重する——なんか難しい言い方ですけど。それを通してわたしたちはイエス様の呼び掛けに覚えていこうとするわけだし、そのためだったらば最後までイエス様はわたしたちと共にいて必ず助けてくださると信頼する。だからこそ一歩を踏み出していくんだと思います。

復活節の間、実は福音朗読を通してイエス様の呼び掛け、そしてそれに応えるためにわたしたちは自分の力ではなくて、神様の助けに信頼して応えるのだと、聖霊の助けによってイエス様の呼び掛けに覚えていくことができるようになるんだっていう、聖霊降臨に向けた、聖霊を待ち望むっていうその心の準備は既に始まっているわけです。だから、互いに愛し合うとは具体的にどうしたらよいのかということ聖霊ご自身が教え、そして助けてくださるように、信頼してイエス様の呼び掛けに覚えて、その思いを新たにしていこうということが大切なんだろうと思います。

今日、わたしたちと共に、互いに愛し合う、そのコミュニケーションを築いていこうとされるイエス様ご自身を、御聖体を通して、またこのごミサを通して、一人ひとりの中にお迎えする。わたしたちが何が本当に愛することなのかを見極める知恵、そして実行する勇気を願いながら、このごミサをお捧げしたいと思います。

参照：

第58回「世界広報の日」教皇メッセージ（2024.5.5）

「AIと心の知恵——真に人間らしいコミュニケーションのために」

<https://www.cbcj.catholic.jp/2024/04/09/29419/>